



平成24年5月7日

## 卓話『間違いだらけの医者選び』

医師・ジャーナリスト

富家 孝 様



富家でございます。年功序列終身雇用も変わり、昔無かったインターネットもあって時代が変わりました。ただ医者の世界は全然変わってないですね。医療界、大変不思議な世界です。

一つは偏差値の高い人。東大理科Ⅲ類と慶應医学部。この二つが71.5と、ともかく高い人がなっている。もう一つは家がお金持ち。私大29校のうち6年間で授業料だけで3千万以上かかるところが21校あります。大体、金があるか偏差値の高い人っていう非常に不思議な集団で、かつ世襲制が高い。自民党は世襲議員が多いとか言ったって45%もいかない。医者の世界は9割を越しています。

世の中では患者が医者を選ぶ時代なんて言つてますけど、そういう集団に皆さん対応しなきゃいけない。1999年コペルニクス的展開があり、横浜市大で肺の手術を心臓にしたという間違が初めて出た。その後都立広尾病院で点滴に消毒薬を間違って入れたっていうのが出た。あれ昔なら内緒だった。別に最近増えたわけじゃないんです。

内科は診断がつけば治療は決まる。診断学と言う人もいます。外科は技術、巧みさです。その人の偏差値や身分、地位は関係ない。心臓血管の病気の東京の主な施設の治療実績は順天堂190例、慈恵医大53例、東京医大60例ぐらい。60といったら月に5例、週1本ですよ。大学病院はそんなレベル。やってるのは全部個人病院。名前通ったところはありません。技術ですから身分、偏差値は関係ないんです。

皆さんも全身麻酔の手術をやらな駄目ですよって言われることがあるかも知れない。全身麻酔

はもしトラブルが起こった場合、あの世に行くか植物状態です。そこで私は申し上げておきます。最低でも3人の先生の意見は聞いてください。この間、私のところに相談に来た人は主治医に胆嚢のポリープですぐ手術と言われた。私が紹介した専門家は「そんなもの手術する必要ない」と。もう一人は「様子を見たらいい」と。そういうことなんです。手術の説明を受けるときは必ずメモを取る。どんな手術をするのか、術式を聞く。あなたが、手術なんかしたくない、他の方法はないんでしょうかと聞いてみるのもいい。そこまで手術したくないなら内科的な治療をしようと言うかもわからない。何でかというと技術ですからトラブルが起こるのは当たり前なんです。

日本では48,000人が医療のトラブルで死んでる。肺がんでの死者が59,000人ですよ。大腸がんと変わらぬ数が死んでるんです。もし手術が決まつたら、その医者の病院のホームページはチェックしてください。病院の設備よりその先生がどれだけ手術しているかが大事です。この先生は大丈夫という思い込みは禁物。資料を出さない病院もおさらばすべきです。最後にゴッドハンドかペーパーハンドかを見極めること。神の手と言われないで、いくら世界的な論文書いたって関係ない。何かあればいつでも話しできる医者を一人捕まえておくのも大事です。

ありがとうございました。

